

# 財政健全化が維持されたインド予算案

## ポイント① 財政健全化路線の維持

インド政府が2月1日に発表した予算案では、足元の景気減速やGST（物品・サービス税）徴収の進捗の下回り等を背景に、2020年度（2019年4月～2020年3月）、2021年度ともに従来の想定からそれぞれ対GDP比で0.5%の財政赤字悪化が容認されました。但し、2021年度の財政赤字は対GDP比3.5%と、2020年度の3.8%から縮小する見通しとなっており、財政健全化路線は維持されました。

歳入面では、政府が保有する国営企業株の積極的な売却が財政のサポート要因として働く見込みです。また、消費喚起に向けた個人所得減税や、投資促進のための企業に対する配当減税も発表されましたが、いずれも規模は限定的となり、財政規律に対する配慮が見られました。

## ポイント② マクロ経済、金融市場への示唆

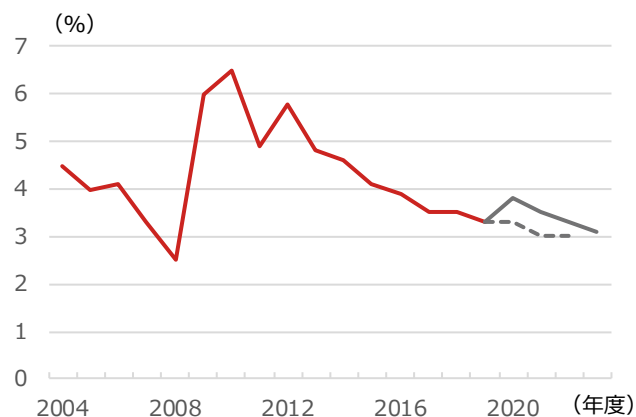
遅れが生じるとはいえ財政健全化路線は維持されており、過度に成長促進を狙った予算ではないため、景気に対しては中立的と考えられます。国債による市場借入は、2020年度は据え置かれ、2021年度はやや増額されたものの市場予想の範囲内にとどまったため、債券・金利市場への影響は限定的と考えられます。

## ポイント③ 市場の反応

2月3日の金融市場ではインド債券の利回り低下（価格は上昇）が見られました。過度な財政刺激策の発表に警戒していた市場参加者もいた中で、財政健全化路線が維持された安心感から債券が買い進められました。一方、通貨の反応は限定的でした。

図1：インドの財政赤字（対GDP比）

期間：2004年度～2023年度



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成  
(注) 2020年度以降は政府想定値、点線は従来の見通し

図2：予算案ポイント

- 1、2023年度財政赤字：対GDP比3.1%
- 2、国営企業株の政府保有分の売却
- 3、個人に対する所得減税
- 4、企業に対する配当課税減税
- 5、積極的な農業振興とインフラ投資

(出所) 各種資料を基に野村アセットマネジメント作成

図3：市場の反応

	インドルピー円	5年債利回り
2020/1/31	1.5185	6.59%
2020/2/3	1.5227	6.48%
騰落率・差	0.28%	▲0.11%

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。